

活動例1〔人とのかかわり〕 0歳児 1学期

『人見知り』

育てたい力

- ・泣き声や表情などで気持ち（快・不快）を表す力
- ・安定した生活、遊びのリズムで、機嫌よく過ごす力
- ・気持ち良く体を動かすことを楽しむ力

経験させたい内容

- ・親しみをもった保育者と家庭的な環境の中で安定し機嫌よく過ごす。
- ・睡眠・授乳・離乳食・遊びと安定した生活リズムで過ごす。

0歳児7月 事例

〔クラスの実態〕

- ・男児5名女児4名計9名。人見知りが激しく親しい保育者の後を追って泣き続ける子供がいる。
- ・腹ばい、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、一人歩きと、それぞれの姿で体を動かして遊んでいる。
- ・戸外で過ごしたり散歩に出たりすると、機嫌よく過ごしている。
- ・午前の睡眠、午後の睡眠と2回の睡眠をとり、ミルク・離乳食、遊び、とそれぞれの時間にメリハリができてきた。

〔指導や環境の工夫〕

- ・不安定で泣いて気持ちを表す子供には、親しみをもっている保育者が抱いたり、あやしたりして、保育者との信頼関係を築く。
- ・一人一人の生活リズムを大切にする。
- ・清潔・安全で家庭的な保育環境にする。

〔エピソード〕『せんせい だいすき！』

保育者に抱かれて1対1で離乳食を食べていたA児（7ヶ月）。

保育者が「おいしいね」と言葉かけをし、A児は保育者の目を見ながら「ア〜ウ〜」と応えながら機嫌よく口を開け食べていた時、栄養士が「食べていますか？」と食事の様子を見に入室してくる。

昨日までは栄養士の姿を気にすることなく食べていたのに、姿を見て突然泣き出す。栄養士から少し離れ、抱き「〇〇先生だから大丈夫よ」と言葉かけをしながら、A児の不安な気持ちを受け止めると落ち着き泣き止むが、次の日からは、栄養士の声を聞いただけで泣き出した。また、クラスの保育者以外の大人に声をかけられたり、近くで姿を見たりしただけで泣き、不安な表情を見せて親しみをもつ保育者にしがみついてくる。



予想される活動例

- ・外気浴
- ・散歩
- ・ふれあい遊び
- ・わらべうた

〔1歳児へのつながり〕

- ・保育者に抱かれたりあやされたりして信頼関係をもつことで、安定して過ごし豊かな感情が育ち、自分の気持ちを表現する力となる。